

# 保 健 体 育（中学校）

## 1 改訂の基本的な考え方

- ・ 心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、運動や健康に関する課題を発見し、その解決を図る主体的・協働的な学習活動を通して、『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』を育成することを目標とする。
- ・ 体育科・保健体育科における学習過程では、これまでも心と体を一体としてとらえ、自己の運動や健康についての課題の解決に向け、積極的・自主的・主体的に学習することや、仲間と対話し協力して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに、体育科・保健体育科で育成を目指す『知識・技能』、『思考力・判断力・表現力等』、『学びに向かう力・人間性等』の資質・能力の三つの柱を確実に身に付けるため、その関係性を重視した学習過程を工夫する。
- ・ 体育科・保健体育科の指導内容において、体育については、児童生徒の発達の段階を踏まえ、学習したことを実生活や実社会に生かし、豊かなスポーツライフを継続できるように、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるように示す必要がある。保健においては、健康な生活と疾病の予防、心身の発育・発達と心の健康、健康と環境、傷害の防止、社会生活と健康等の保健の基礎的な内容について、小学校、中学校、高等学校を通じて系統性のある指導ができるようにする。

## 2 改善・充実の具体的事項

- (1) 体育分野については、生涯にわたって運動やスポーツに親しみ、スポーツとの多様な関わり方を場面に応じて選択し、実践することができるよう内容等の改善を図る。
  - (ア) 各領域で身に付けたい具体的な内容を、資質・能力の三つの柱に沿って明確に示す。体力や技能の程度、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるよう配慮する。
  - (イ) 体を動かす楽しさや心地よさを味わうとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識し、運動やスポーツの習慣化につなげる観点から、体づくり運動の内容等について改善を図る。
  - (ウ) スポーツの意義や価値等の理解につながるよう、内容等について改善を図る。特に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会がもたらす成果を次世代に引き継いでいく観点から、知識に関する領域において、オリンピック・パラリンピックの意義や価値等の内容等について改善を図る。
  - (エ) グローバル化する社会の中で、我が国固有の伝統と文化への理解を深める観点から、日本固有の武道の考え方に触れることができるよう、内容等について一層の改善を図る。
- (2) 保健分野については、心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容等を充実する。また、個人生活における健康課題を解決することを重視する観点から、健康な生活と疾病の予防の内容を学年ごとに配当するとともに、体育分野との一層の関連を図った内容等について改善を図る。

## 3 移行措置について

- ・ 令和元年度及び令和2年度の第1学年保健分野において「主体と環境」及び「調和のとれた生活」を追加する。
- ・ 令和元年度及び令和2年度の第1学年体育分野において「運動やスポーツの多様な楽しみ方」を追加し、令和2年度の第1学年体育分野において「運動やスポーツの学び方」を省略する。
- ・ 令和2年度の第2学年保健分野において「生活習慣病」及び「薬物乱用など」を追加し、「健康と環境」を省略する。